# トリアージエリアでの救護活動

（相澤宏樹ほか、気仙沼市立病院東日本大震災活動記録集、気仙沼、2012、p.102-117）

2016 年 3 月 11 日、災害医学抄読会 http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/

**【論文の概要】**

気仙沼市立病院での震災発生直後から災害医療体制が解除されるまでの１１日間の活動記録を、外来看護師の視点から、トリアージエリア（赤、黄、緑）ごとに記録したものである。

**【気仙沼市の被害状況】**

気仙沼市は、宮城県北東端の太平洋沿岸に位置する都市である。東日本大震災では震度 5 強～6 弱を観測し、大津波とそれによって流出した石油の引火による広域火災も発生し、被害は甚大なものであった。

**【気仙沼市立病院の概要】**

気仙沼市立病院は、宮城県の最北端に位置し、病床数 404 床（うち感染症 4 床）、職員数約 500 人の総合病院である。二次医療圏の人口は約 10 万人であり、救急告示病院ならびに災害拠点病院である。震災発生から 30 分後、病院の直前まで津波が到達したが、小高い丘の上に立地していたため津波の被害は免れた。また震災発生から 3 日後の 3 月 14 日、気仙沼湾に散在する石油タンクやガスボンベに引火し、大規模な火災が起こっている。

**【震災発生までの準備と震災発生直後の初動】**

災害拠点病院の指定を受けていたため、災害に備えて何度も訓練が行われていた。そのため震災発生直後、すぐにトリアージポスト、簡易テントが設置され、救急室は「赤」、内科外来は「黄」、外科外来は「緑」として各々自主的にエリアごとの簡易ベッド設置、物品準備が行われた。

（写真：トリアージポスト設置例、多摩川クラフト有限会社ホームページより http://www.tamagawacraft.com/app/Blogarticleview/index/ArticleId/338）

**【各エリアの活動】**

（黒エリア）

普段使用しない感染症病床を利用し、ご遺体の安置を行った。

（赤エリア）

救急室スタッフが対応した。当日は多くの外傷患者の来院を予想していたが、実際には低体温症、溺水、燃えた重油が発生する黒煙の吸引による肺炎の患者であること、震災死のほとんどが水死であったこと、震災発生直後は交通手段が遮断されたことなどから震災当日の来院患者は 20 名程度であった。

翌日以降は DMAT や自衛隊の派遣により多数の傷病者が来院した。傷病者の多くが低体温症や肺炎で、浸水で濡れた体は冷たく生理学的評価が難しいため、オーバートリアージとなり一時的に赤エリアに多数の患者が収容された。

（黄エリア）

内科外来スタッフが対応した。震災発生直後は患者およびスタッフの安全確保に努めた。震災が金曜日の午後という、患者が少ない時間帯に発生したため通常より患者数は少ない状況であった。黄色エリアに来院した患者は、震災発生から 11 日間で 583 名で、その内訳は溺水、熱傷、骨折、脱臼、裂傷、発熱、嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、頭痛、喘息発作、吐血など多様であった。また、停電の影響で在宅酸素療法(HOT)を行っている患者が自宅で酸素吸入できなくなり来院するケースも多かった。黄色エリアでは、患者に処方される薬の調剤に半日かかるような状況で、診察終了後から長時間の待ち時間が発生した。

（緑エリア）

外科外来スタッフが対応した。他エリアと同様に準備を行った。来院した患者の内訳は、打撲や挫傷、ガラスやクギによる切創や刺創、風邪症状や喘息、胃腸トラブルなどであった。また、慢性疾患患者が降圧薬やインスリン、ストマ用品を求めて来院することも多かった。11 日間で来院した患者（1,918 名）の 7 割が緑エリアに集中した。

**【災害を振り返って】**

（よかったこと）

- 災害拠点病院に指定されていたため、震災発生前から災害の訓練、勉強会を繰り返し行っていたため、スタッフの初動がよかった。
- 対応にあたった看護師自身も被災者であり、長期間にわたる災害医療体制の中でスタッフが疲弊する姿をみて、院長自らが埼玉県知事へ職員派遣の要請を行い、3/22-4/11 までの間に総勢 40 名の看護職員が派遣された。支援看護師が派遣されたことで、業務の軽減や職員の休日取得が可能となったり、また精神的な支えともなった。

（課題）

- 外線ばかりでなく、院内 PHS も不通となったため外部との連絡、病院内での連絡が困難となった。
- 交通手段が遮断されたことで、診療終了後の患者が多数帰宅困難となった。近くの避難所に誘導したり、患者を搬送してきた救急隊に頼んで患者を近くまで連れて帰ってもらったりと、普段では行わない帰宅手段の確保まで配慮する必要に迫られた。
- トリアージタッグをカルテとして使用したが、再診患者が多くなるにつれて限界が生じた。今後は簡易カルテの作成などの検討する必要がある。

【参考文献】

1. Wikipedia 気仙沼市について
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%97%E4%BB%99%E6%B2%BC%E5%B8%82 (2016.3.9 参照)
2. 気仙沼市立病院ホームページ　http://www.kesennuma-hospital.jp/ (2016.3.9 参照)